

園だより

2021年9月号
2021年9月1日発行

『曜日体験』

今年の夏、園庭では何度も泥んこを楽しみました。固くなった泥場を、スコップでほぐすところから始め、土を柔らかくしてから水をたっぷりに加え、田んぼのような柔らかさまでに・・・その中に足を踏み入れると、ズブズブと土の中に入る感覚はなんとも言えず、気持ち良いものです。子どもたちは、遊んでいくうちに、手や足でその感覚を感じたり、腕に泥パックのように塗ってみたい、最後は泥の上に寝転んでしまうほど時間を追うごとに大胆になっていきます。遊びに夢中になり大胆になっていくのは、心が解放されていくからなのかもしれません。子どもたちのこういう時の、目の輝きや一味違います。

白梅大学名誉学長の汐見稔幸先生は自然体験について、以下のように言われています。

『やはり子どもたちの育ちの中には、自然はできるだけあったほうがいいというのは事実でしょう。だからと言って、いつも森や海へ連れていかなければならない、というわけではありません。大切なのは、子どもたちに「曜日の自然」を体験させてあげることです。

「日」はお日さま。日なたぼっこをしたり、日なたや日陰を感じたりすることです。

「月」は暗闇や夜を体験すること。



「火」は、今の子ども身の周りにほとんどなくなってしまいましたが、たき火やキャンプなど。

「水」は、子どもたちの大好きな水遊び。

「木」は、木の幹の感触を味わってみたり、木をおもちゃにして遊んだり、葉っぱや草花であそんだりということ。

「金」は、鉄や銅などの金属を使うこと。

「土」は、土・砂・石など。泥んこ遊びや砂遊び、あるいは、土の上を歩いてみるという経験も気持ちのいいものです。曜日というのは、人間にとって大事なものをう

まく表しているんですね。人間は進化の過程で、曜日の体験を喜ぶような遺伝子が備わるようになってきているのだと思うのです。』

泥んこに限らず、園庭では水遊びや虫探し、草花あそびと子どもたちは遊びを主体的に広げていっています。私たちは限られた環境の中で、子どもたちが自然を少しでも多く体験できるよう、夢中になれる遊びが見つかるような環境を、日々探求していきたいと思えます。

泥場の水たまりに、トンボが卵を産み付けていたようで、ヤゴを発見した子どもたちが大興奮！！

泥んこ遊びの次は、ヤゴ探し！！子どもたちの目の輝きはまだまだ続きそうです。 西田 麻紀